

第 92 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2005 年 7 月 14 日(木) 16 時 30 分~18 時 00 分

場 所: 創立 30 年記念棟 3F 大会議室(常念岳)

演 者: Dr.R.G "Wick" Alexander 氏

(テキサス州アーリントン 米国矯正歯科専門医)

タイトル: 矯正治療における長期安定性の検討

Alexander 先生は 1964 年テキサス州アーリントンで開業、39 年余も臨床にたずさわられ、その治療終了症例は 14,000 ケースを超えています。この豊富な臨床経験と優れた治療結果を導く際に治療方法を簡素化して成就し、患者にも快適な治療を施すという治療哲学に基づいて考案されたアレキサンダーディシプリンは非常に説得力があります。

Alexander 先生は 1981 年から日本においてコースをスタートさせてから今年で 25 年目を迎えます。その基本的な治療哲学、概年は一貫して変わりませんが、アレキサンダー法 (*The Alexander Discipline*) は種々の改良が加えられ細かい変遷の元に現在があります。

先生はこの治療法は Keep It Simple, Sir (K.I.S.S.理論)などの 20 の原則を元にこの方法はシンプル(簡潔)になっているが、決してイージー(簡単)ではないと述べておられます。

矯正歯科における到達目標は、良く接触した咬合、バランスの取れた顔貌を治療後数十年にわたって安定した状態に保つことであることはいうまでもありません。治療を常にコントロールし、特定の間隔で随時目標を達成し、歯や顎を最初の位置から最終位置まで最短の方法で移動させ、恒久的な美しさと機能的な結果を得た多くの症例からその治療結果と長期安定性について、多くの研究実績をもとにお話をさせていただく予定です。

本学においても多くの症例を先生のコンセプトの下で治療をしており、この方法の有用性を常に感じております。今回はご多忙の中、来学していただく機会を得ましたので、多くの皆様の聴講と参加を心から期待しております。

大学院歯学独立研究科長 小澤 英 浩
歯科矯正学講座 栗原 三 郎